

釋迦八相倭文庫





213
2944
20

昭和九年
七月九日
購求

萬應賀作
歌川國貞画

錦
堂
校



倭文庫
五拾七編



へ13
2944
20

釋教万より百首

文覚のたふ
こゆをいへる
何おもふべき
ふとん
西乃



山人
國子色

七世

釋迦八相倭文庫五拾七編序

經曰佛目蓮の告云天已の明る諸の灯を可滅と尊者
如教次第の灯を滅して唯一灯而已消殘さば袈裟衣を以て扇之
光彌明なり佛曰是貧女が二灯也不可滅と云く扱貧女が二灯の
本説といふ阿闍世王佛の飯の宮の迎へて説法在り夜祇洹
精舎を數万の灯を燃せしを見て一人の貧女是を隨喜し
二支を得て一灯を營り功德ありて三十一劫を経て須彌灯光
如來と成るといふを今茲の闍王を月蓋に祇洹を大林の
摸擬するの闍の杜撰を光と照る万燈會するを爾云

慶應四辰春



万亭應賀誌



目蓮尊者竜宮
從順淨檀金乞
て世尊ふ献也



五十七
それのうけのしに
ひぬくおもふと
いく肩のうじまを
きぬぐれんとその
うぬとておせと
らあめめさふ
くとつういそ
ひすぬのうまを
もちのうじまを
まぬるこまは
まきゆへいとど
のうれんとあな
ほのうせとてん
せよといさん
がのふすむめ
ぶんぢんちの
おもふとすてく
だいのそわふ
いせとあごえ
ありされのうろ
ういちやうやのみ
うしのとくらぬん
ころころいふあら
なんぞとおちのあ
まひぬぬくす
まちとわいせ
おふあうたれば



This woodblock print illustration depicts a powerful dragon-like creature, likely a Ryū, with multiple heads and a human-like face. The creature is shown breathing fire, with a large, stylized flame extending from its mouth towards the bottom right. The dragon is positioned behind a lattice fence, which is partially obscured by the fire. The background is filled with stylized, swirling clouds. The top of the image is bordered by Japanese text, and the left side features a decorative pattern of small, repeating motifs. The overall style is characteristic of Edo-period Japanese book illustrations.

[illegible]

姊妹文庫

五

[illegible]

This woodblock print illustration depicts a person, likely a woman, in a kimono, looking down. The image is heavily annotated with handwritten Japanese text in kuzushiji script. The text is written in various directions, including vertically and horizontally, surrounding the figure. The style is characteristic of Edo-period book illustrations.

[illegible][illegible]







又さういふこと
 であらうが
 ちやうど
 まうのその人
 あつむき
 ういざのあい
 あゝと云ふが
 せせんかうと
 せむいせせん
 ちやうど
 まうのその人
 あつむき
 ういざのあい
 あゝと云ふが
 せせんかうと
 せむいせせん
 ちやうど
 まうのその人
 あつむき
 ういざのあい
 あゝと云ふが
 せせんかうと
 せむいせせん

This woodblock print depicts a celestial assembly of Buddhist figures. Five haloed figures stand upon a bed of clouds, with rays of light emanating from the group towards the lower right. The figures are adorned in traditional monastic or divine attire. Below the celestial group, a large lotus flower rests on a tiered base. To the left, a small ritual setup includes a vase with blossoms and a bowl. In the foreground, a devotee is shown kneeling in a gesture of devotion, hands clasped in prayer. The entire scene is framed by stylized cloud patterns. Japanese calligraphy is integrated into the composition, providing context and identifying elements.

きりぎりす
を三せんふ
久てのつ
とちをさ
えきこも
どかんか
ゆでん
のまご
るまへびと
まぐいの
られぬと
うのうず
ふゆを
ひそあそく
あうやめりの
ぐるすわら
あれとのなれが
せんとく下け
みくゆいよく
のこあとせ
はそぬひそ
おんせの
りよりせん
どうふまざる
ふとおね
あうとうお
きくぬりう
ままたのちの



るをあらん
 せよあつと
 其れゆ
 そくろり
 百ちゆ三
 十一やま
 灯光能中
 ののとあつと
 のふあや台
 うきうき
 やまのこを
 まて用
 うかや
 たづにま
 このあ
 ぶれ千
 まんを
 ついて
 うきあ
 あつと
 はさの
 うき
 のあ
 因



應賀作國貞画



この図は、應賀作國貞の「應賀作國貞画」である。図中、中央には大きな丸い物（鼓や大鉢）があり、右側には数個の小い香炉（香合）が並んでいる。前景には、数個の小い筒状の容器が並んでいる。背景には、大きな葉の植物があり、その上には数個の小い丸い物（果物や小鉢）が吊っている。図の周囲には、多くの日本語の注釈が記されている。これらの注釈は、図の内容や作者の意図について詳しく説明している。図の右下には「交來書」とある。

明治二年己巳春新放自録

倭文庫

五十六編 五十七編 萬事應負作

朝日譚

八編 柳亭種彦作

重井菱次別小紋大尾

十返舎九作 大尾

常般石津懷中本

初へん二へん 小中あそび書

重繪草紙本類問屋

人形町 上州屋 重藤松



三世歌川豊國画



下

倭文庫五拾編



万亭應賀作

上

二世豊國画

倭文庫

五十八編上

万亭應賀作

上重板



釋迦八相倭文庫五拾八編序

大砲の如し玉の春の己へ轉倒沉倫して草本杯へ午を喰じ
と三歳以來の筆の首を傾て思ひおの趣向もく本來喰
の娑婆女を無隨者の珍宝貯る古雜器の拂喰は只空で喰ふ
足らぬ現在無菴の戯作郎頗て藏書の紙をく未年と案
せし處へ此本の催促の徒足る百萬編と使へく佛頂面南無
三寶にや空で居ねと短日を燈下で鼠のチウを聞き
鳥がカアとく迄の彼法名か母子の續を漸稟を成みこそ

明治四未年
初春發市

万亭應賀誌



四方の護法神
 炎匿龍王の
 逐電と嚴追
 止て法名章
 小誅さむ

南方軍荼利



毗金剛夜叉

社守さん

蘇我軍五十八

二



炎匿竜王

炎匿の使者
けんごろう



炎匿の使者

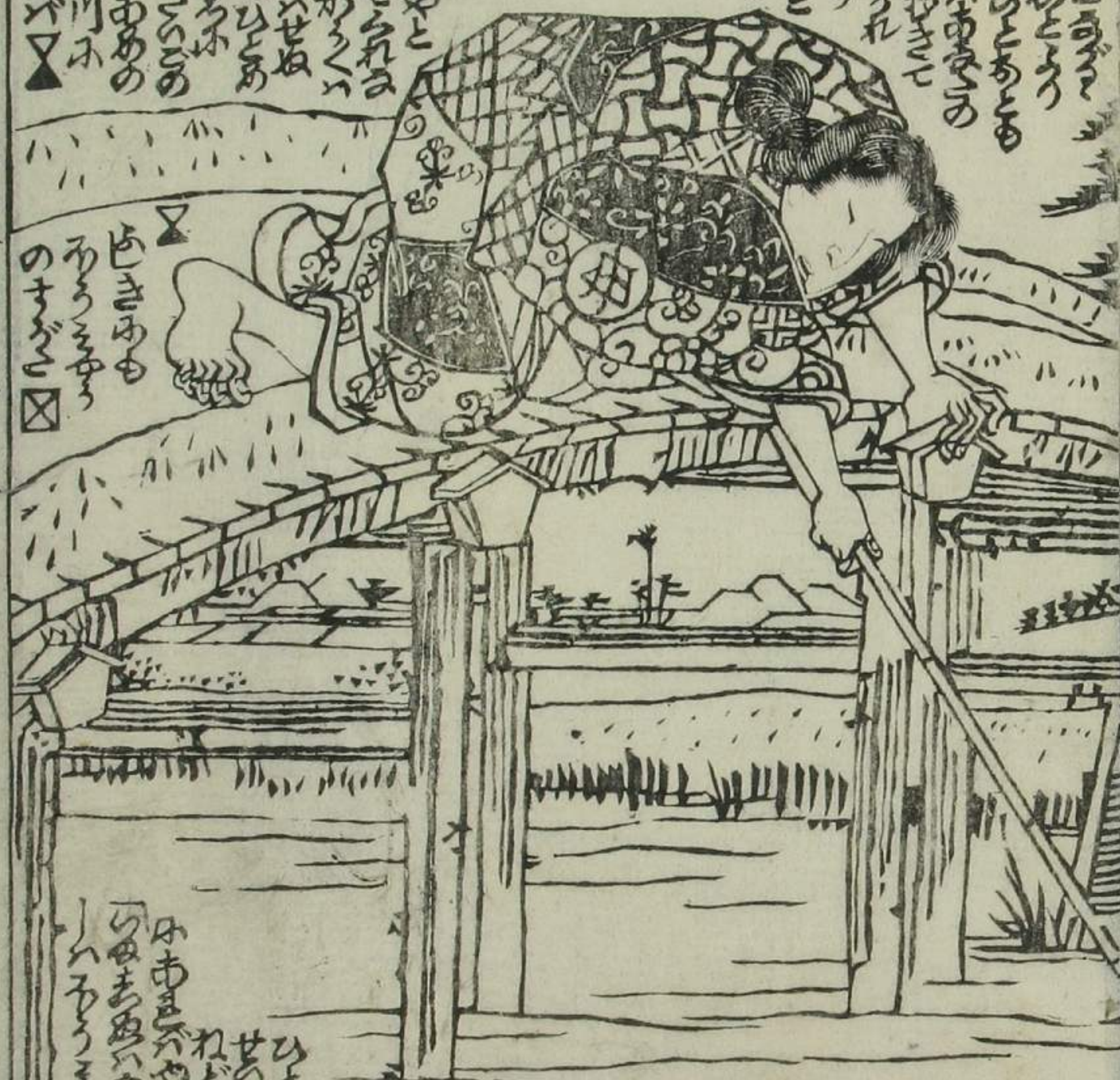
炎匿の使者

[illegible]

区のくせんあふい
 乃根のふいむこまど
 あふいふいむこまど
 乃根のふいむこまど
 乃根のふいむこまど

[illegible]

ちやうど
 やうほひとあとも
 まれねがふまゝの
 いそぐをむきて
 のぼるうられ
 あつやう
 るまじき
 はあす
 うらで
 あやの
 ふらん
 とある
 せきを
 うるよ
 おつ且
 まひあはと
 うりんであれぬ
 そぢかかうい
 けふれにせぬ
 どうぞひとあ
 めてあは
 うんとさのめ
 るまゝあめの
 ぶくふ川ふ
 あつ且バ△

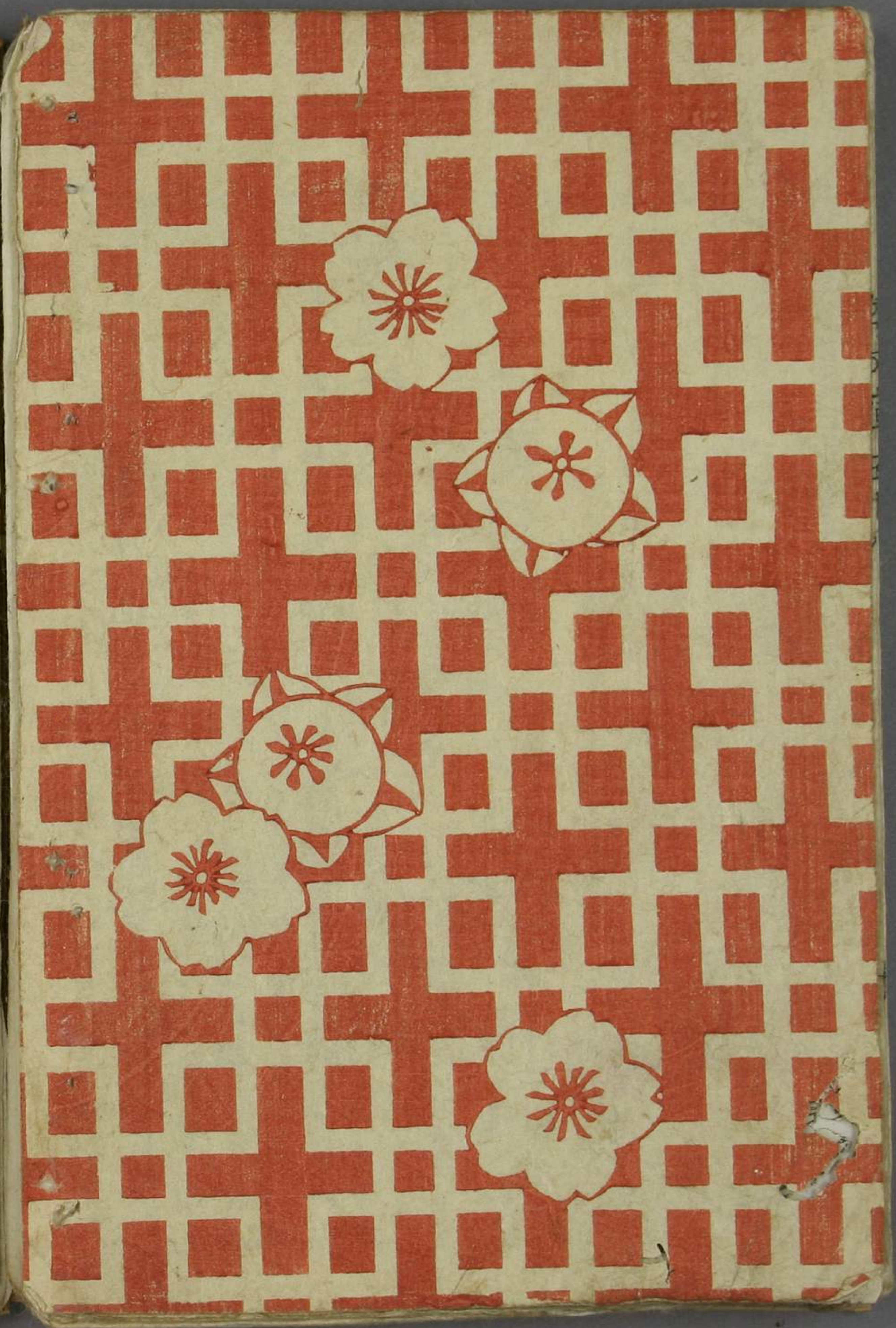
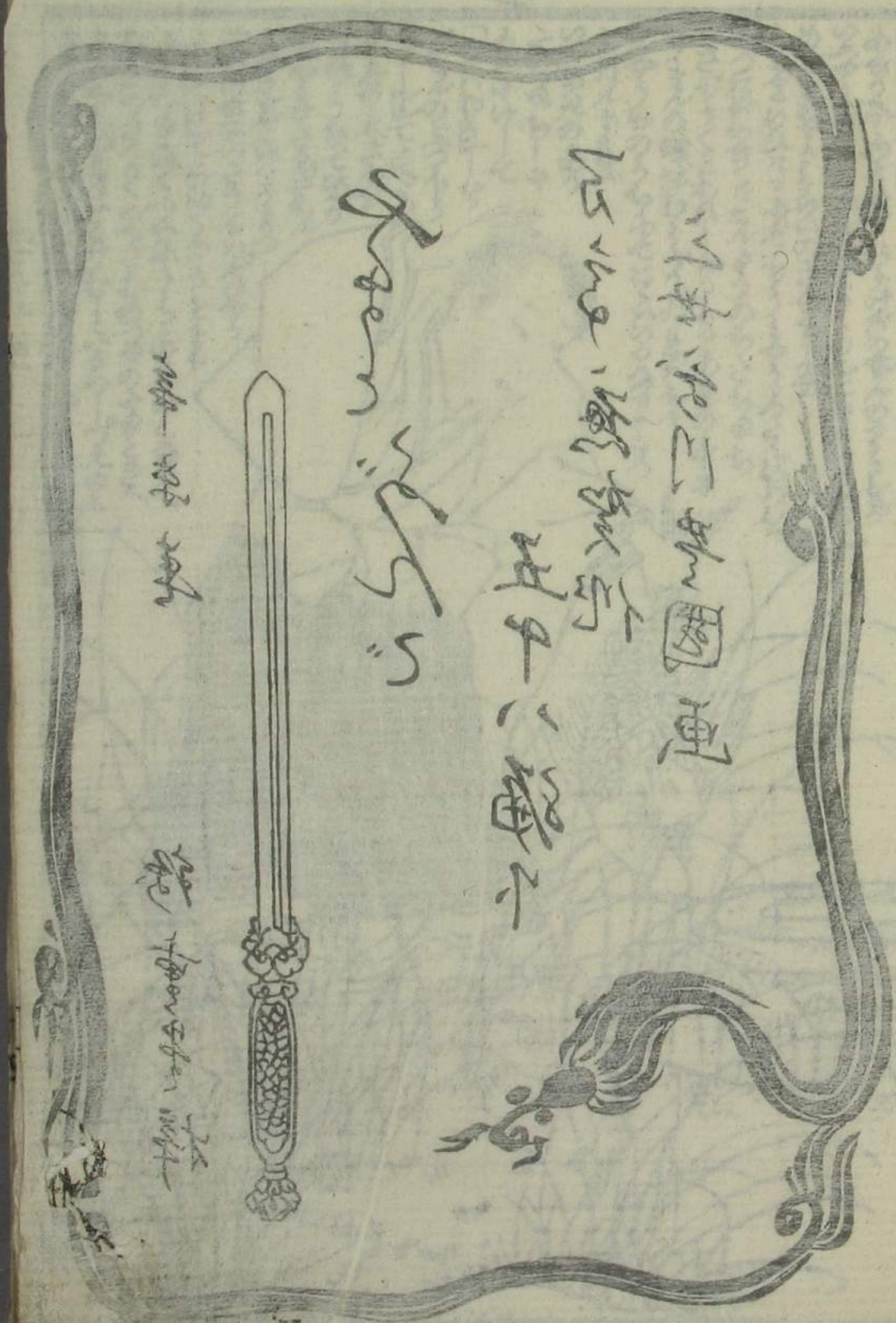
[illegible]

[illegible]

又云つぎ文の
 ぐろをのねぐさ
 ちとある
 とものところ
 るともす
 ちとある

[illegible][illegible]

[illegible]



錄重刊梓

かきんこ

五十八 下

萬壽無疆

二世市川孝國画

[illegible]

卷之四

三

ついでにまゐるあつちのあつちの
あつちのあつちのあつちのあつちの
ついでにまゐるあつちのあつちの
あつちのあつちのあつちのあつちの



ついでにまゐるあつちのあつちの
あつちのあつちのあつちのあつちの

ついでにまゐるあつちのあつちの
あつちのあつちのあつちのあつちの
ついでにまゐるあつちのあつちの
あつちのあつちのあつちのあつちの



ついでにまゐるあつちのあつちの
あつちのあつちのあつちのあつちの
ついでにまゐるあつちのあつちの
あつちのあつちのあつちのあつちの

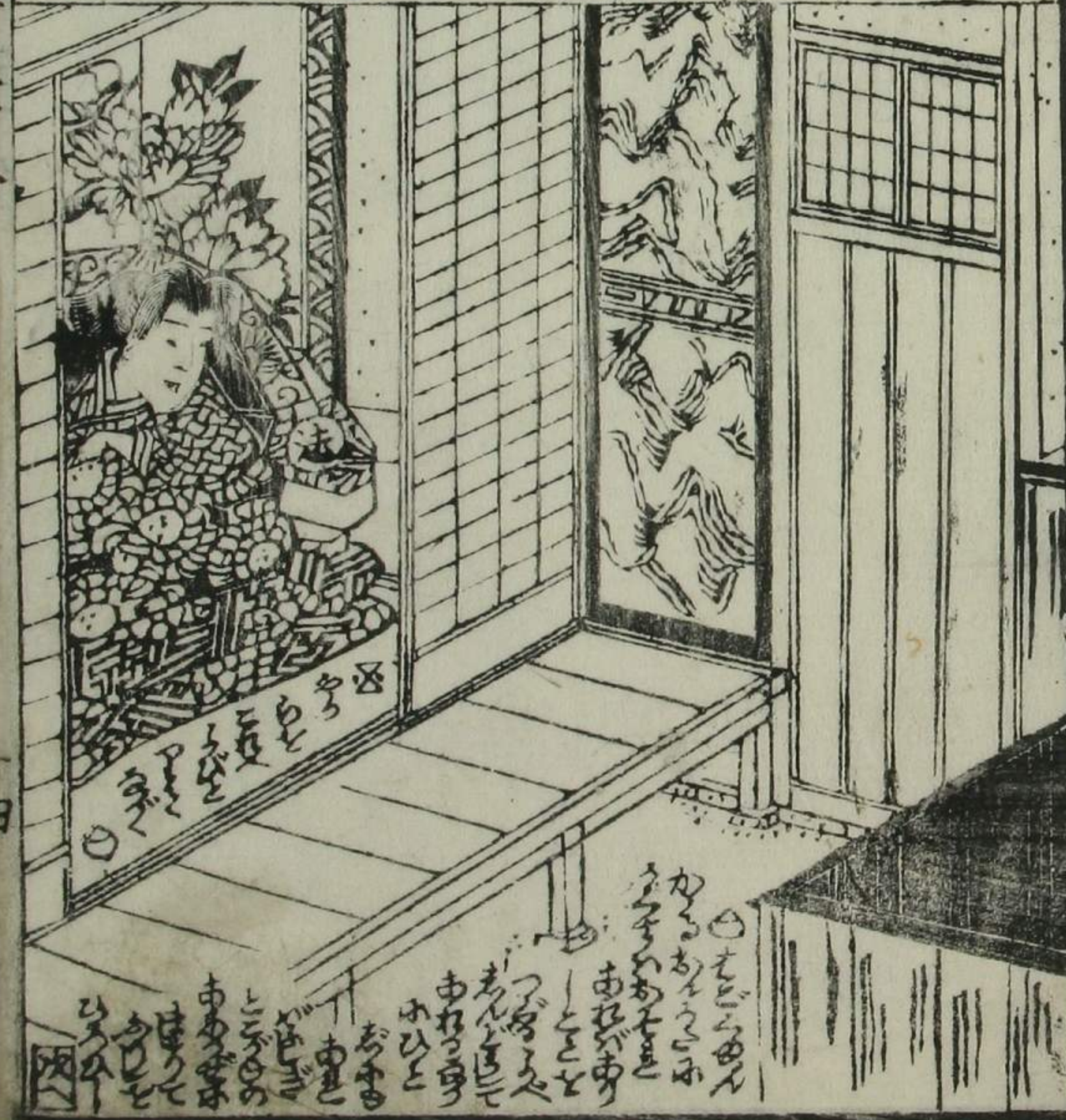
[illegible]

委女之車五十八

て申こ
めといふ
事をも
あはれ
の可なり
ふまゝに
すやう
まゝある
つゆに
くぐさぬ
あゝあ
の区



〇まどうめん
 かるあうごふ
 うすいあそそ
 あわあ
 ーとと
 づろん
 めんきん
 あわあ
 めいと
 ああ
 ああ
 げん
 とろの
 ああ
 はうて
 あいせ
 ひん



大正十三年
 三月
 十日
 午後
 七時
 分

大正十三年
 三月
 十日
 午後
 七時
 分

[illegible][illegible]

休のころうて
 ひまやわら
 うるあはれを
 わけてきこ
 とみせが
 うくらつと
 こめち
 あふさそ
 もとの
 むせん
 うろのむい
 まつじうと
 びんうろのむい
 ながれがまちあ
 すてうらう
 そをくづいて
 うらうあうぞ
 えせんその
 うぞうもあ
 とあはれが
 せんのかく
 うろのむい
 うらうあはれ
 かのがうらう
 うらうあはれ
 のひらう
 つま

ありてはまづ
 心をあて
 ありてはまづ
 心をあて
 ありてはまづ
 心をあて

[illegible]



合とんりあぞおえの
まてのちうまう
あつちのあつち
あまーあまー
合とんりあぞおえの
まてのちうまう
あつちのあつち
あまーあまー

のちとめと
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー

合とんりあぞおえの

あまーあまー



合とんりあぞおえの
まてのちうまう
あつちのあつち
あまーあまー
合とんりあぞおえの
まてのちうまう
あつちのあつち
あまーあまー

のちとめと
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー
あまーあまー

合とんりあぞおえの

あまーあまー



あつちうあつち
えあつちうあつち
ひえあつちの
めあつちう
めあつち
くさく
オ五十カ
大十ハ
ひえあつち
しめあつち
つめあつち
かめあつち
ごめあつち
のめあつち
あつち
ねあつち上
さあつち
つめあつち



